

「認知症世界の歩き方実戦編」：寛 祐介（かけい ゆうすけ） 「この世界には、カイケイという様々な難所がある高い壁がある」【対話編 「カイケイの壁」】

－PART I 対話編：認知症の方が生きる世界を知り、言葉を交わし、関係を深める－

《 この世界には、お会計というゴールにたどり着くまでに、数々のトラップが潜んでいる高い壁がそびえたっているのです。この世界屈指のクライミングスポット・会計の壁は、なんと、とあるスーパーマーケットの目の前にそびえたっています。ほぼ直角のこの壁を登り始めると・・・。
時には記憶の溝にはまり、どこに手を伸ばせばいいのか次の動きがわからなくなる。
時には巨大な生き物の鳴き声に驚き、注意を奪われる。目の前の空間が歪み、足を滑らせ踏み外す。タイムリミットは数十秒。この断崖絶壁のアドベンチャーに挑む道のりには、様々な難所が待ち受けています。》

◆ **会計の壁の背景：人生は選択の連続だ。現代社会の便利な仕組みを使いこなすには高度な認知機能が必要**
新しい便利なサービスは、加齢により認知機能が低下しつつある高齢者の方にとっては、非常に生きづらい環境です。
【便利なサービスの手続きを達成できない理由】

- ① 記憶の壁に突き当たり、何をすればいいかわからなくなるかもしれません。
- ② 周囲の人の声や音楽に聴覚が支配され、目の前のやるべきことに集中できないかもしれません
- ③ 手足を自由に動かし、必要なものを掴んだり、適切な場所に足を運ぶのが難しいかもしれません。一連のプロセスの中で、何か一つの壁や落とし穴に遭遇してしまったら、目的は達成できないのです。

【4つのカイケイの壁と落とし穴】

- ① 一つ目は記憶の壁：レジで375円と言われ、財布を除くと金額が思い出せない⇒瞬時に記憶から消える
- ② 二つ目は錯覚の壁：財布の中の小銭を見つけ出せない⇒形や大きさを正しく認識できない
- ③ 三つめは計算の壁：必要なお金の計算が難しかった。⇒簡単な数の計算ができない
落とし穴⇒音楽の音に気を取られ集中できない
- ④ 四つめは空間の壁：財布の中の必要なお金を掴んだり、取り出すのが難しい
⇒モノや空間の奥行の存在を認識できない

◆ **認知機能のトラブルによりスーパーへの足が遠のきがち?! この認知機能トラブルの推理**

1. 財布からお金を出そうとしている間に、金額がわからなくなってしまったのでは?

【本人の声】「375円ね。ん?いくら?375円ね。いくら?・・・」

短期記憶のトラブルにより、金額を目や耳で確認しても、財布に目を落とした途端に記憶から消えてしまい、金額がわからなくなった可能性があります。

2. 必要なお金の計算が難しかったのでは?

【本人の声】「500円玉はないから、100円を3枚、10円玉は???'」

数字を記憶し、加減乗除するのは高度な認知機能を必要とする行為です。

3. 館内放送や周囲の人の声が気になり、混乱してしまったのでは?

【本人の声】「375円ね。『いいらっしゃい!今日は鮭がお得だよ~』ふーん、鮭がお得なのかあ。アレ?何している?」
五感と注意のトラブルにより、周囲の様々な音が耳に次々と強制的に飛び込んできて、お会計に集中できなかった可能性があります。

4. 必要な小銭やお札を財布から見つけ、取り出せなかったのでは?

【本人の声】「5円玉あった。あれ?これは50円だ。100円?1円?」

① カタチと色の識別のトラブルです。⇒1円玉と100円玉、5円玉と50円玉、これらの色や大きさの違いを識別できず、お目当ての小銭を見つけることができなくなったのかもしれない。

② 身体感覚と空間のトラブル。財布の中で取り出すべき小銭のところに指を適切に動かし、お目当ての小銭をつまみ財布から取り出すことが難しかった可能性があります。

5. 後ろの人が気になり、カイケイを諦めてしまったのでは?

【本人の声】「こんなに列が・・・後ろの人が・・・」

混雑していて、自分の後ろに長い行列ができてしまい、人に迷惑をかけたくないという思いから、諦めてしまった可能性があります。

◆ **アイデア**

1. 一緒にお店を訪れ、なじみの客になっておく

⇒ 本人がお店でトラブルになった場合などに頼りになるのが、馴染みのお店であり馴染みの転任さんです。普段から綿密にコミュニケーションを取っておき、可能な限り、ご本人の症状や苦手なことを理解してもらっておくと、大きな問題を避けられます。

2. 高齢者に配慮した店舗、空いている時間帯を調べ、利用する。

通路やレジ回りが狭い店、レジの台数が少なく長蛇の列ななりやすい店、夕方などの混雑している時間帯は、お買い物の難易度が格段に上がります。空間的ゆとりがある店や時間帯を事前に把握しておき、その店・時間帯に買い物に行くようにしましょう。

3. 電子マネーなどの買い物手段を一緒に検討し、試してみる。

⇒ お金の計算や取り出しが不要で重宝するのが、プリペイドカード・クレジットカード、電子マネーです。使いすぎ防止など、便利な機能がついているカードもあります。ご本人と相談の上、色々な選択肢を検討し、本人が使いやすい決済手段を選択しましょう。